



第6号 (2008年) 平成20年10月

発行・編集/改革・緑新
長野県庁県議会棟内(026)232-0087
発行責任者 倉田 竜彦 印刷所 中外印刷KK
http://www.kaikaku-ryokushin.com

9月定例県議会

**現地機関の見直し、
県立病院のあり方など活発に議論**

補正予算は17億円、財政の厳しさを浮き彫りに

9月定例県議会に提案された議案は、一般会計補正予算案等、予算案2件。条例案6件。阿智村と清内路村の合併や、平成19年度決算の認定について等、事件案6件。教育委員会委員に前茅野市長の矢崎和広氏、公安委員会委員に元県出納長の花岡勝明氏選任の人事案2件です。決算認定をのぞきずれも可決されました。

今議会の一般質問等で多く取り上げられた課題は、現地機関の見直し、県立病院の地方独立行政法人化、厳しい県財政への対応、高校再編、中期総合計画の取り組み、地球温暖化対策、職員の不祥事(公金横領)等々でした。

とにより、人事や給与など弾力的に対応でき、医師確保やサービスの維持向上につながると思います。

**県立病院の
地方独立行政法人化**

行政機構審議会の答申を受けて、5つの県立病院を平成22年4月から「地方独立行政法人」による運営に移行することをめざすという提案です。県の直接経営から離れるこ



どうなる県立病院(阿南病院)

現地機関の見直し

これら行政機構審議会の答申を受けて、来年4月より県の現地機関を4ブロックまたは10広域単位に統合するというものです。前議会に引き続き、権限の移譲(市町村や組織内分権)との関連、統合される部署の具体的な課題、県民サービスの維持や県民への説明など多

しかし、一般質問や委員会審査で多くの議論がなされましたが、関係市町村や県民にとってはサ

画期的なエマルジョン燃料に驚嘆

8月19日(21日)に会派の県外調査を実施しました。まず、函館市で「エマルジョン燃料」と「常温核融合」について勉強した後、青森県弘前市のイチゴ組合に行き、実際に活用している低炭素エネルギー(最新のエマルジョン燃料)について視察しました。

エマルジョン燃料(乳



ほとんど煙の出ない煙突の前で

化燃料)は、水と油脂燃料を混ぜ、燃焼できる状態にした燃料です。

がきく(安定性がある)

**子育て支援の拡充など
意見書案を可決**

今定例会では、議員及び委員会提出の議案を全部で20件可決しました。わが会派からは、「子育て支援策の拡充を求め意見書案」について、高島議員が提案理由を説明し、わが国の少子化・人口減少の実態を受け、具体的な子育て支援策をさらに講じるよう国に求め、全議員からの賛同を得ました。

このほか、「介護人材の意見書案」、「米穀の流通に係る食の安全・安心の確保に関する意見書案」



このほか、「介護人材の意見書案」、「米穀の流通に係る食の安全・安心の確保に関する意見書案」

くの課題について理事者の考えを質しました。12月議会での条例化・正式決定に向けさらに議論を深めていきます。

高校改革

本年12月に示される予定の再編計画案について、統合する具体的な学校名が示されるのか、地域ごとの実情にあった弾力的な対応はできないのか、県民への周知は十分か、など高校再編を巡って疑問や要望、提案が出されました。すでに統合が実施された学区もある一方ほとんど白紙に近いようなところもあります。単に子どもが減るからという数合わせでなく、それぞれの地域の実情にあった、学び甲斐のある高校をつくらせていくよう取り組んでいきます。

**補正予算の大半は
税の還付金**

今回の補正予算は、総額約17億円のうち、税の還付金が15億円と大半を占めています。これは昨年度予定納税された法人県民税・事業税が企業業績の悪化に伴い納め過ぎとなり、利息を付けて返すためです。また、今年度の税収も約194億円見込みより少なくなりそうである今年度の予算執行や来年度の予算編成が大変厳しくなっています。これらの対応や税収確保に向け真剣な取り組みが必要です。

「信州オリジナル食材」の日

県産の農産物・食材を豊富に使った料理の試食会が、9月29日県庁10Fの食堂を会場に開かれました。

「信州ブランド」として広く認知され、定着しつつある「信州サーモン」、「信州黄金シャモ」と、「松本一本ねぎ」をはじめ名産の野菜類、「信州しめじ」、「バイリソング」といった地元特産のきのこなどを、巧みに利用し取り入れた品々や、鹿肉を加工したメニューなどが、ずらりと並びました。 コメ粉パンや青豆の豆腐、果樹は「ナガノパー

**Topic
飯田市で対話集会を開催**

10月7日飯田市において、会派として初めての取り組みである「県政対話集会」を開催しました。会派のメンバー10人が出席し、約100人の県民の皆さんのご参加をいただき、活発な意見交換が行われました。



**地方自治政策課題
研修会を開催**

7月10日、第4回長野県議会地方自治政策課題研修会が、県庁講堂にて行われました。



県議会が主催者として行ったものですが、我が会派としても、竹内副実行委員長はじめ11名全員が参加しました。

小島康晴の 県政レポート

VOL.6

飯田市高羽町3-1-7 TEL・FAX(0265)23-5388



初めての「県政対話集会」を シルクホテルで開催

多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。

9月県議会

三度目の正直・現地機関の見直しを問う 唯一行政評価のあり方も質す 一般質問

今議会で一般質問も6回目となりました。今回は、任期の後半に臨む村井知事に対し、現下の課題にも関連しながら、地方自治の本旨に基づく分権改革の推進、行政運営の根幹に関わる行政評価のあり方についてその基本姿勢を質しました。なお、大きな課題である県立病院のあり方など、医療や福祉に関する課題については、所属する社会衛生委員会において論議しています。

分権改革と 現地機関の見直し

【小島議員】今回存続するとされた機関については、相当の期間維持されるべきと考える。

【総務部長】頻繁に大きな見直しを行うことは慎重にしなければならぬが、変化への対応も随時行わなければならない。

【小島議員】労政事務所を統合した結果、県民サービスが低下しないような配慮は？

【商工労働部長】出張相談窓口の開設や現地での

労働教育の提供など十分配慮したい。

【小島議員】新しい「南信教育事務所飯田事務所」の機能、権限、「南信教育事務所」との関係、現在の飯田教育事務所との違いは？

【教育長】新しい飯田事務所は、現在の教育事務所業務のうち、学校管理に関する指導・助言、生涯学習に関する機能を引き継ぎ、総務課の業務の大部分を南信事務所(伊那)に集約する。

【小島議員】県民サービスを低下させないよう十分な方策をとるべきである。

【総務部長】職員が現地に出向く、会議開催の場所を工夫するなどサービスが低下しないよう努めていく。

【小島議員】現地機関の見直しと並行して、権限移譲の推進をする分権改革は実際進んでいるのか？



一般質問も6回に

【総務部長】市町村への権限移譲は希望を踏まえ順次実施している。現地機関への権限移譲も保育所の設置認可の委任など進めている。

県立病院の今後 課題の多い社会衛生委員会

Q 県立病院の地方独立法人化について、これから1年半後というのは大変厳しい。どうしてもという特段の理由があるのか。

A 2年に1度の診療報酬の改定が予定されており、これに間に合わせた方がいい経営なのでできるだけ早くやりたい。

Q 県議会や県民が運営に関与できるのか。

A 県民の声が活かされるシステムである。

Q 今の制度でも給与や人事など弾力的な運用が可能か。

A 総合計画に沿った新しい政策評価の仕組みとの継続性、整合性はどのようか。

鉄道を活かした観光振興等

【小島議員】観光振興などに鉄道を活かすことが重要と思うが、各鉄道会社とはどのような連携がされているか。

【観光部長】各地域の実行組織に参加したり、地方事務所での財政支援など行っている。ケースバイケースで柔軟に対応し支援したい。

【小島議員】地域発元気づくり支援金について、圏域を超えた地域おこし

道路等の県有財産の維持・管理

【小島議員】道路法面からの落石等による損害賠償が多い。事故のあった現場はどのように対処されているのか？事故を未然に防ぐために、危険箇所を早急に総点検すべきではないか？

【建設部長】昨年度は75件980万円余を損害賠償している。事故のあった現場は当面の安全を確保している。防災点検や橋梁点検を実施しているが、引き続き安全確保に努めたい。

公共交通対策 特別委員会では生活バス問題に関して、国土交通省へ補助制度の充実を求め陳情しました。

6回の本会議を経験しました。その中でも不思議に思うのは、本会議中の議員の皆さんの出入りが多いことです。一方、答弁のため出席を求められた理事者側は知事以下当然誰も席を外しません。

私としては、市民の皆さんに選任いただきたいこの場にある以上、1分たりとも席を外すまいと「皆勤賞」につとめております。せっかく出席しても睡眠に負けてはいけなさと反省しつつ...

みなさまのご提言やご要望をお寄せ下さい。
長野県議会 改革・緑新
〒380-8570 長野市南長野字幅下692-2
電話(026)232-0087 FAX(026)231-5592
HP://www.kaikaku-ryokushin.com
E-mail:kaikaku-ryokushin@grace.ocn.ne.jp